

■福祉心理学科 2019 年度開講科目 カリキュラムマップ

福祉心理学科 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

福祉心理学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

① 総合的な人間理解力

1. 人の心には、人々に共通する心の特徴（一般の原理や法則）と、人それぞれの心の特徴（個人差や多様性）があることを理解できる。
2. 人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わる（可塑性）を理解できる。
3. 生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる。

② 根拠に基づく情報発信力

1. 心理学の方法（文献検討、観察、実験、調査、面接など）を用いて、客観的なデータを集めることができる。
2. 心理学の方法で得たデータを図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる。

③ 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力

1. 生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題や解決の目標に気づくことができる。
2. さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、他者の考え方や当事者の気持ちも考慮し、予防策や解決策を見出すことができる。

④ 共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力

1. 他者の気持ちや考えを共感的に理解し、対話のなかでお互いの理解を深めることができる。
2. 他者の気持ちを尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる。

⑤ 自己理解に基づくセルフコントロール力

1. 自分の考え方、気持ち、行動とそれらの特徴に気づくことができる。
2. 怒りや不安などの自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる。
3. 自分の成長につながる目標を立て、やる気（モチベーション）を高め、保つことができる。

⑥ 集団理解に基づく対人調整力

1. 集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる。
2. 集団で情報を共有し、メンバーのやる気（モチベーション）に心を配り、自由に意見を出してもらうことができる。
3. メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる。

⑦ 心理学の学びを生かした社会貢献力

1. これまでの学びを統合して、人々の幸せや福祉に貢献することができる。
2. 個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる。

●専門必修科目・専門選択必修科目・専門選択科目A群

科目コード	科目名称	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要、○重要、△望ましい)							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
CC2103 CC2149	福祉心理学	現代の日本社会は、まさに「ストレス社会」であるといえます。そのストレス社会を生き延びるのはそう簡単なことではありません。現に複雑・多様化する日本社会にあって、「心」の悩みを抱えている人が急速に増加してきていることがよい例でしょう。 福祉心理学は、社会的に弱い立場にいる人々の心の問題を受容し、理解しながらどのような関わりができるかを探る、「福祉」と「心理」の融合を目指した新しい学問です。実際的には、福祉の世界に「心理学」の知見を活用し、人々の「生活の質」(QOL)を向上させ、幸せの追求を援助するための方法について学んでいきます。	1) 一人一人の幸せ追求とQOL（生活の質）の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。 2) 「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。 3) 福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 4) 虐待についての基本的知識を身につける。	◎	○	○	◎	○	○	○	◎
FA2531	心理学概論A	心理学の基礎を学び、自分や他者の心を理解することは日常生活の多くの場面で有効なものです。 心理学の研究対象になっている諸現象の基本について概観しながら「人間らしさ」を考え、心理学的な現象がいかに日常生活に関連しているかを学びます。研究をはじめて間もない方にとっては心理学の全体像をイメージしていただき、また、すでに研究が進んでいる方にとっては、その再確認をしていただけることをめざします。教科書・レポート学習では基礎的な理論を学び、スクーリングでは心理学諸理論をどう日常生活と関連づけて考えるかを学びます。	1) 心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。 2) 心理学の成り立ちをや人の心の基本的な仕組みと働きを、具体例を挙げながら説明できる。	◎	○	○	○	○	○	○	◎
FA2532	心理学概論B	「心理学概論A」参照。	1) 心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。 2) 心理的支援の考え方の基本を説明し、実践することができる。	◎	○	○	○	○	○	○	◎
FA2501	心理学概論	「心理学概論A・B」参照。	「心理学概論A・B」参照。	◎	○	○	○	○	○	○	◎
FB2533	心理学実験ⅠA	心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。 科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するところにある実験法の特徴がありますが、「心理学実験ⅠA・ⅠB」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。	1) 心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。 2) 「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。 3) 「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。 4) 実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。 5) 基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。 6) 実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。	◎	◎	◎	○	○	△	△	
FB2534	心理学実験ⅠB	「心理学実験ⅠA」参照。	「心理学実験ⅠA」参照。	◎	◎	◎	○	○	△	△	
FB2505	心理学実験Ⅰ	心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。 科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するところにある実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。	1) 心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。 2) 「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。 3) 「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。 4) 実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。 5) 基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。 6) 実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。	◎	◎	◎	○	○	△	△	
FB3535	心理学実験ⅡA	心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。 科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するところにある実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。	1) 実験テーマおよびデータ収集方法を理解し、適切な手順でデータ収集を行うことができる。 2) 得られた結果を適切に整理し、実験テーマののった意味づけ（考察）をすることができる。 3) 研究記述のフォーマットにのって、レポートを作成することができる。	◎	◎	◎	○	○	○	○	
FB3536	心理学実験ⅡB	「心理学実験ⅡA」参照。	「心理学実験ⅡA」参照。	◎	◎	◎	○	○	○	○	
FB2506	心理学実験Ⅱ	心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。 科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するところにある実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。	1) 実験テーマおよびデータ収集方法を理解し、適切な手順でデータ収集を行うことができる。 2) 得られた結果を適切に整理し、実験テーマののった意味づけ（考察）をすることができる。 3) 研究記述のフォーマットにのって、レポートを作成することができる。	◎	◎	◎	○	○	○	○	

FB3537	心理学統計法	<p>本科目では、近年様々なマスメディアでも注目されることの多い心理学に関する話題を統計学の観点から理解・評価するために必要最低限の力を養うことを目指します。特に、数値・グラフ・表の形で表されるデータの意味を統計学的に理解できることを目指します。特に講義および配付資料では、身近な問題への統計学の適用例を具体的な計算を含めながら紹介するとともに、図表を多用することで科目内容をイメージしやすいように進めていきます。</p> <p>より具体的な内容としては、心理学研究の中で実際にどのように統計学が用いられているかについて触れながら、1) 図表によってデータの全容をできるだけ詳細に確認することの大切さが理解できるようになること、2) 種々のデータの特徴について平均値等の代表値のみならず「ばらつき」を表す散布度をも考慮して理解できるようになること、3) データとデータがどのように関連しているのかを理解できるようになること、4) われわれが集めることのできるデータ量には限界があることを踏まえて確率を用いること、そして確率を用いて集めたデータから一般性を推測できるようになること、に焦点をあててお話しします。</p>	<p>1) さまざまな値からなるデータを図表（度数分布表・ヒストグラム等）で表すことの重要性が説明できる。</p> <p>2) データを代表する値やデータのばらつきを数値化し、その数値が表す意味が理解できる。</p> <p>3) 2種類のデータの関係を相関係数の形で数値化し、その数値が表す意味が理解できる。</p> <p>4) 得られたデータから一般を推測する際に確率を用いるという考え方について説明できる。</p> <p>5) 得られたデータから一般についての仮説を立て、それを検証する「統計的検定」の考え方を説明できる。</p>	△	◎	◎	×	×	×	△
FB3538	心理学研究法A	<p>この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「心理学実験Ⅱ」として科目が設定されているので、ここでは、実験法以外の方法について取り上げることにします。また、「検査法」については、「研究法Ⅱ」のスクーリングにおいて解説する予定になっています。</p> <p>心理学は、実証的学問です。実証的というのは、データを収集し、それを分析して、その結果に基づいて論を展開するということです。したがって、どのようなデータをどのような方法で収集するかということが、心理学の研究においてはきわめて重要な意味を持つこととなります。つまり、心理学の研究において使われる方法は、正確にデータをキャッチできるものであるだけでなく、客観的に評価される科学的なものでなければなりません。同時に、心理学の研究の対象は、多くの場合、人間ですから、どのような方法を使う場合でも、そこには一定の倫理性が保たれていなければなりません。この科目では、単に研究法の習得を目指すだけでなく、倫理性・科学性の問題を含めて、心理学における方法論の理解を目標にします。</p> <p>なお、この科目のスクーリングは必須ではありませんが、できうる限り参加することをお勧めします。</p>	<p>1) 心理学研究を実施する上で配慮すべき倫理について説明できる。</p> <p>2) 独立変数や従属変数など、心理学研究の基本的な考え方を説明できる。</p> <p>3) 心理学研究における「観察法」、「面接法」、「質問紙法」のメリットとデメリットについて説明できる。</p> <p>4) 「面接法」、「観察法」、「質問紙法」を用いた研究計画をたてることのできる。</p>	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
FB3508	心理学研究法Ⅰ	「心理学研究法A」参照。	「心理学研究法A」参照。	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
FB4539	心理学研究法B	<p>私たちは、普段の会話において「社交的」や「自尊心」は、それ自体は見ることでもできない抽象的な概念、すなわち心理学的構成概念です。これまでに、心理学的構成概念を測定する心理尺度が数多く開発されてきました。心理尺度を開発するときには、測定したい心理現象を理論的構成概念として明確に定義し、それを反映する質問項目を設定するための一定の手続きが必要になります。そして、心理尺度の精度や適切性の指標となるのが「妥当性」と「信頼性」です。</p> <p>この講義では、統計ソフトを用いてデータ処理や解析を行いながら、心理学的構成概念がどのように質問紙法によって実現されるかを体験します。また、心理尺度の構成概念妥当性と信頼性について統計的な検証を行います。これらを通して、心理学的研究方法のひとつである質問紙法に関する基礎的知識を習得し、質問紙法を用いた学術論文が読めるようになること、また、質問紙法による研究を実施できるようになることを目指します。</p>	<p>1) 心理学的構成概念について説明できる。</p> <p>2) 質問紙法を用いた学術論文を読むための基本的用語について説明できる。</p> <p>3) 質問紙法を用いた学術論文で用いられることが多い統計的手法についてある程度説明できる。</p> <p>4) 仮説に基づいて質問項目を準備し、適切な方法で調査を行うことができる。</p> <p>5) 質問紙調査によって得られたデータを仮説に基づいて分析し、結果を報告することができる。</p>	○	◎	◎	△	△	△	△
FB3509	心理学研究法Ⅱ	<p>この科目は、心理学において使われる代表的な研究の方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」として科目が設定されており、さらに「心理学研究法Ⅰ」において、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つについて学習します。この科目では、検査法に関する理解と調査法のデータ分析（心理統計）に関する理解を図ることを目的とします。</p>	<p>1) 知能検査・発達検査・性格検査の概要と留意点を説明できる。</p> <p>2) 手順ののつとって統計的仮説検定の一連の流れを自ら実施することができる。</p> <p>3) 心理学研究及び研究法を用いる際の倫理を理解し、これからの学修に生かすことができる。</p>	◎	◎	◎	○	○	△	△
FC2540	社会・集団・家族心理学A	<p>社会心理学は、人間の社会的行動の法則性を明らかにする学問です。私たちの社会的行動には不可解な現象が数多く存在します。それらの行動は多くの要因の複雑な影響を受けています。社会心理学は様々なアイディアに基づいた精緻な実験や調査によって、その現実を取り出し、背後にあるメカニズムを明らかにしようとしています。講義では、できるだけ多くの興味深い研究を具体的に紹介しつつ、私たちの持つ心のメカニズムについて考えます。そして人間の社会的行動について客観的に考察する態度を養うことを目的とします。</p>	<p>1) 対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解し、説明できる。</p> <p>2) 人の態度および行動に関わる諸要因について理解し、説明できる。</p> <p>3) 集団および文化が個人に及ぼす影響について理解し、説明できる。</p>	◎	◎	◎	○	◎	◎	○
FC2514	社会心理学	「社会・集団・家族心理学A」参照	「社会・集団・家族心理学A」参照	◎	◎	◎	○	◎	◎	○
FC2541	社会・集団・家族心理学B	<p>家族は、人間がかかわりをもつ人間関係や集団のなかでもっとも基本的なもの、つまり「共同生活の最小単位」といえます。歴史のなかで誕生し、ライフコースのなかで形態を変えて存続し、そして消滅し、ふたたび新たな家族として生成されます。私たちは生涯にわたって、家族から大きく影響を受け、また、家族に影響を与えながら存在しています。</p> <p>家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学んでいきます。また、家族がたどる発達段階について理解し、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応について扱っていきます。</p>	<p>1) システムとしての家族を説明することができる</p> <p>2) 家族が個人に及ぼす影響を説明することができる</p> <p>3) 家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる</p>	◎	△	◎	◎	△	◎	○
FC2515	家族心理学	「社会・集団・家族心理学B」参照	「社会・集団・家族心理学B」参照	◎	△	◎	◎	△	◎	○
FC3542	産業・組織心理学	<p>産業心理学はモノやサービスの生産や消費といった場面における人々の行動や心理過程を明らかにする学問で、研究内容は①「組織行動」、②「人事」、③「安全衛生」、④「消費者行動」の4つに大別されます。組織行動領域では、ワークモチベーションや意思決定、チームワークなどが、人事領域では採用や選抜の方法、キャリア発達支援、人事評価などが研究対象となっています。安全衛生領域では、ヒューマンエラーや安全工学、職務ストレスなどが、消費者行動領域では購買行動、広告効果、心理的会計などが研究対象となっています。これら4領域の研究を通して、組織全体が持続して目標を達成し、組織の中で働く人々が効率よく成果を収め、自己成長しながら、他の人と協働して、安全に働くことの実現を目指しています。また、わたしたちは、生産者として生産にかかわり、消費者として消費にかかわっています。これら双方の立場の観点から、今日の産業に携わる人々の心理を探ることも産業心理学のねらいです。スクーリングでは上記①、③、④を、教科書やレポートでは②を学びます。</p>	<p>1) 組織成員の心理について、ワーク・モチベーション、ジョブ・ストレスといった観点から説明できる。</p> <p>2) 組織が組織成員に及ぼす影響を、集団意思決定や公正といった観点から説明できる。</p> <p>3) 産業場面における効率性と安全性の両立について、科学的管理理論やヒューマンエラーといった観点から説明できる。</p> <p>4) 職場における問題（キャリア形成を含む）に対して必要な心理的支援とその方法について説明できる。</p> <p>5) 消費者行動の背後にある心理プロセスについて説明することができる。</p>	○	◎				◎	○
FC2689	人間関係論	<p>人間関係は私たちにとって必要であり、また避ける事の出来ない問題でもあります。この人間関係について主に心理学の観点から理解し、日々の生活に役立てる方法を学んでもらえるよう講義を進める予定です。講義で扱ったトピックを自分の経験と照らし合わせながら理解してもらいたいと思います。</p>	<p>1) 日常場面での人間関係について、理論的に理解できる。</p> <p>2) 自分自身の人間関係についての経験を理論的に説明できる。</p> <p>3) 対人葛藤場面での解決方法を学び、自分なりに応用する事ができる。</p>	◎	○	△	◎	◎	◎	△
FD3543	発達心理学	<p>「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのでしょうか？そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのでしょう？さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのでしょう？この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探っていくこととなります。もちろん「生涯発達心理学」という科目名ですから発達する期間は「生涯、一生の間」と考えるわけですが、では生涯という視点で人を理解するとはどのようなものなのでしょう？「子ども」「大人」「高齢者」といった年齢区分ごとの理解に留まらず、「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人を理解するということを考えてみましょう。</p>	<p>1) 発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。</p> <p>2) 幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。</p> <p>3) 発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。</p> <p>4) 発達障害等非定型発達についての基礎的な事項を説明できる。</p>	◎	△	○	○	○	△	△
FD2502	生涯発達心理学	「発達心理学」参照	「発達心理学」参照	◎	△	○	○	○	△	△
FD2516	児童青年心理学	<p>児童青年心理学は、人間の児童期と青年期における発達の姿と特徴、発達にかかわる要因の分析やそのメカニズム等を明らかにすることを中心におく発達心理学の一分野です。児童は狭義には学童期をさしますが、広義には、人間の誕生から、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期までの青年にいたる前の発達期をすべて包含します。そして、学童期に続く青年期にある個人の心理・行動を研究するのが青年心理学です。したがって、児童青年心理学で扱う対象は、児童期・青年期としておきます。</p> <p>児童期・青年期の示す種々の行動や状態について一般的傾向を把握するばかりでなく、そのような発達をもたらす要因や条件の分析、発達の制御や発達過程を明確にするための理論の構築と検証、そして理論の適用へと児童青年心理学の課題は進展してきています。</p> <p>それらを解明するためには、単に児童や青年を対象とする心理学だけではなく、心理学の他の領域—家族心理学、教育心理学、臨床心理学、コミュニティ心理学—はもちろんのこと、近接領域の科学—社会学、経済学、生物学、文化人類学—などとも、ますます密接に関係をもつ必要性がでてきています。児童・青年の理解とその行動科学のために、基礎的な知識と理論を学んで欲しいと思います。</p>	<p>1) 児童期と青年期について、他の発達時期の相違点を、領域別に説明できる。</p> <p>2) 児童期を学校生活の低学年（1-2年生）、中学年（3-4年生）、高学年（5-6年生）に分け、それぞれの特徴を比較して説明できる。</p> <p>3) 今日の社会における児童期や青年期の特徴や問題点、発達のつまずきや節目について説明できる。</p> <p>4) アイデンティティの形成プロセスや意義を理解し、4つのステータスのそれぞれの特徴を比較説明できる。</p> <p>5) 概念形成や思考作用に必須となる言語習得のプロセスについて説明できる。</p> <p>6) 感情が分化して発達し、自己の行動や対人関係に及ぼす影響について説明できる。</p>	◎	○	○	◎			○

FD2544	老年心理学 A	<p>これまで老年期（高齢期）は一般的に否定的なイメージでとらえられてきました。しかし人間を生涯発達する存在として考えると、老年期は発達の最終段階にあたる時期となります。人間は加齢に伴ってさまざまな身体的変化や心理学的な変化を示しますが、それが実際にはどのように起こってくるのかを系統的に学習していくのがこの科目のねらいです。具体的には、老化の基本的考え方や知能に代表される精神機能の変化、老年期のパーソナリティと適応、対人関係、死の問題などについて、心理学的な理解を深めていくことがこの科目の大きな目的です。</p> <p>スクーリングでは、最新の統計資料等を用いながら、上記の内容を具体的に考えていきます。</p> <p>レポート学習では、知識としての基本事項を確認した上で、実生活に即して理解します。</p>	<p>1) 高齢期のとらえ方や高齢者を取り巻く現状について、基本的な事項を説明できる。</p> <p>2) 高齢期に生じる変化や高齢者の心理について、実生活に照らして解説できる。</p> <p>3) 言語習得や感情理論、感情喚起の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を、加齢との関係を含めて理解する。</p> <p>4) 高齢者の心理を理解するための要点について、自分の意見を述べるができる。</p>	◎	◎	○	○	△	△	◎
FD2545	老年心理学 B	<p>わが国では、認知症の人の増加に伴い、認知症の人の生活をどのように支えていくのかということが、社会の大きな課題となっています。その一方で、認知症という病気や認知症の人の心理、適切なケアのあり方等については、未だ十分な理解に至っていないのが現状です。本科目では、これらの問題について、特に心理学的な観点を中心に、系統的に学習していくことをねらいとしています。具体的には、認知症を取り巻く現代社会の状況や制度・施策、認知症という病気や症状に関する基礎的な知識を得た上で、認知症の人の心理や心理に影響する要因を理解したケアのあり方等を考えていきます。また、認知症の人を介護する家族等の心理についても理解していきます。</p>	<p>1) 認知症を取り巻く現状、認知症という病気やその症状について、基本的な事項を説明できる。</p> <p>2) 認知症の人の心理や心理に影響する要因について、具体的に解説できる。</p> <p>3) 認知症に関する言語や感情の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を理解する。</p> <p>4) 認知症の人や介護する家族等の心理を理解した上でのケアのあり方について、自分の意見を述べるができる。</p>	◎	◎	○	○	△	△	◎
FD2517	老年心理学	「老年心理学 A・B」参照	「老年心理学 A・B」参照	◎	◎	○	○	△	△	◎
FD3546	発達臨床心理学	<p>この講義では発達の観点に立って人を理解し支援するために大切となる考えや知見について述べていきます。さらに、主に発達障害児や乳幼児期の子ども、加えてこのような子どもに関わる人々に対する支援について述べていきます。スクーリングを通して以下の内容について理解を深めてください。</p> <p>1) 発達支援の特徴と基本的な考え方</p> <p>2) 発達理解や支援において理解が必要となる発達のプロセスやメカニズムの特徴</p> <p>3) 様々な発達障害の特徴と発達の道のりで直面する生きづらさ</p> <p>4) 発達障害児へのかかわりと発達支援の方法</p> <p>5) 育児における諸問題（育児不安や虐待など）の特徴や発生のメカニズム、対応の基本</p> <p>6) 「気になる」子の保育、そして、その子が属するクラス運営などの困難さと支援の方法</p>	<p>1) 発達臨床心理学や発達支援の特徴について説明できる。</p> <p>2) 発達理解や支援の際に理解が必要となる発達のプロセスやメカニズムの特徴を説明できる。</p> <p>3) 2) の視点から人やその人が直面している問題を見ることができる。</p> <p>4) 発達障害の特徴と直面する生きづらさ、関わりや発達支援の基本について説明できる。</p> <p>5) 乳幼児期の子どもの発達に関連する諸問題とその支援について説明することができる。</p>	◎	×	×	△	×	△	○
FE2547	教育・学校心理学 A	<p>「心理学」の中で最も有名な研究のひとつに、エビングハウスが行った記憶の研究があります。「人はなぜ忘れるのか？」という発想で、記憶や忘却のメカニズムをはじめ科学的に研究したからです。一方、「教育心理学」では、「どうしたら忘れなくなるか？」という発想をします。この発想の違い、つまり“学ぶ人の味方になって考える”ことが、教育心理学的に考えるということです。子どもであれ大人であれ何かを学ぶ人は、まちがったりつまづいたりすることもある、それはきっと本人なりの理由があるにちがいない、その“言いぶん”にじっくり耳を傾けてその対策を考える、というわけです。</p> <p>本科目で使用する教科書には、算数や国語などの具体的な教え方ではなく、“学ぶ人の味方”という考え方や発想を生んだ研究が数多く紹介されています。ご自分の「教育」「学習」「発達」などに対する考えとつぎあわせると同時に、「ほほう、こういう考えや研究は学ぶ人の味方になっているな」などと、ご自分の日常生活、仕事等の体験の中で生じる問題解決方法の“ヒント探し”をしながら読み進めていただければ、と思います。</p>	<p>1) 人間の子どもが成長・発達していくことにとって「教育」が不可欠であることについて、具体例を挙げて説明することができる。</p> <p>2) 「教育と発達の関係」について、2 つの大きく異なる考え方を学び、どちらが“学ぶ人（子ども）の味方”になる考え方なのか、自分なりの理由を持って説明することができる。</p> <p>3) 「学ぶ」というプロセスが「わかる」と「わからなくなる」の繰り返しであること、「つまづき」を学びのスタートにすることによって「学ぶ楽しさ」が生み出されること等の意味について、具体例を挙げて説明することができる。</p> <p>4) 学校などで行われる授業も含めて、ある目的を持った活動を続けていくためには、「自己評価」が大切であることを、自分の仕事や生活の中にある目的的活動を例に説明することができる。</p>	◎	○	◎	○	○	◎	○
FE2513	教育心理学	「教育・学校心理学 A」参照	「教育・学校心理学 A」参照	◎	○	◎	○	○	◎	○
FE3548	教育・学校心理学 B	<p>教育臨床での専門職は、いまや教師だけでなくスクールカウンセラー、支援員、相談員、スクールソーシャルワーカーと多様化し、そのチーム援助が求められる時代になりました。本科目では、教育現場において生じる問題およびその背景を理解し、子どもの適応支援の方法について学びます。スクーリングでは、事例から学校不適応によって生じる問題と、その適応支援の方法論を学びます。レポート学習では、教科書を読んで適応支援の方法と課題についての学びを深めます。</p>	<p>1) 教育現場において生じる問題を説明できる。</p> <p>2) 教育現場において生じる問題の背景を説明できる。</p> <p>3) 学校適応条件を説明できる</p> <p>4) 学校不適応の子ども支援の方法を説明できる。</p>	◎	○	◎	○	○	◎	○
FE3549	障害者・障害児心理学	<p>この科目では、身体障害や知的障害、精神障害などの障害を持ちながら生活している人々の心理・行動面に関する理解を深めることが目的です。それぞれの障害像はどのようなものなのか、それにより引き起こされる心理・行動的諸問題はなにか、どのような社会的課題があり、どのような支援が可能なのかについて、学びを深められればと思います。</p> <p>教科書やレポート学習で主に学ぶ内容としては、障害に対する基本的な考え方や一般的なメカニズム、心理社会的課題などに関する基礎事項が含まれます。スクーリングで主に学ぶ内容としては、各種障害の状態像や、心理社会的支援に関する内容などが含まれます。</p>	<p>1) 身体障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。</p> <p>2) 知的障害や発達障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。</p> <p>3) 精神障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。</p> <p>4) 障害を捉えるモデルを説明でき、その受容過程について考察できる。</p> <p>5) 精神疾患や発達の障害に対する心理社会的な援助方略について説明できる。</p>	◎		◎	◎			◎
FF3550	感情・人格心理学	<p>心理学は、行動の説明と予測、適応や成長、自己実現などを目的としています。日本神話の素戔鳴尊（スサノオノミコト）は、高天原で、乱行を続けます。なぜでしょうか。そして、天照大神は乱行が続くことを予測し、天岩戸に引き籠もりました。素戔鳴尊は髪も爪も切り落とされ、惨めな姿で高天原を追放されました。誰にも相手にされない中、大気津比売神（オオグツヒメノカミ）がご馳走します。ところが、素戔鳴尊は、短気を起こし、大気津比売神を斬り殺してしまいます。素戔鳴尊は、ただ一人やさしくしてくれた大気津比売神を思いだし、涙を流して後悔します。そのとき、大気津比売神の目から稲が育ち、黄色く実ります。粗暴だった素戔鳴尊には優しさを知恵が備わりました（成長）。その後、八岐大蛇を退治し、奇稲田姫と結ばれ、草薙剣を手にし、天照大神に献上します（自己実現）。</p> <p>素戔鳴尊の行動は短気という感情によって影響され、その感情は大気津比売神への認知によって変わりました。そこで、人格理解の基礎となる認知と感情と行動の関係、心理学における人格の概念、人格の発達や変化、人格に関するさまざまな理論（類型論、特性論など）を学びます。</p>	<p>1) 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。</p> <p>2) 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。</p> <p>3) 人格の概念及び形成過程について説明できる。</p> <p>4) 人格の類型、特性等について概説できる。</p>	◎	△	○	○	○	△	○
FF2511	人格心理学	「感情・人格心理学」参照	「感情・人格心理学」参照	◎	△	○	○	○	△	○
FF3553	心理的アセスメント I	<p>悩みを抱えているクライアントに心理的援助を行おうとするとき、クライアントを多面的、総合的、全人的な角度からとらえることが必要になります。そのためには、クライアントの生育歴やパーソナリティ、環境などの情報を科学的にとらえ、客観的に評価・査定することが重要です。この評価・査定の方法がアセスメントです。心理アセスメントでは、特に「面接法」「観察法」「検査法」よりクライアントへの接近を試みるようになります。そのとき大事なことは、クライアントの気持ちに寄り添いながら癒しの心を忘れないことです。心理アセスメントでは、これらのことを押さえた評価・査定の学習を行うようになります。</p>	<p>1) 心理面における正常・異常の違いについて説明できる。</p> <p>2) 心理アセスメントの3 本柱である「面接法」「観察法」「検査法」について具体的に論じることができる。</p> <p>3) アセスメントにおいて、倫理面を十分に配慮した報告書を書き、報告することができる。</p>	◎	○	○	◎	○	○	◎
FF2519	心理アセスメント	「心理的アセスメント I」参照	「心理的アセスメント I」参照	◎	○	○	◎	○	○	◎
FF4556	心理的アセスメント II	<p>心理学的に人を援助するためには、対象者が示す行動を多面的に捉え、理解し、そこから関わりの方策を見出すことが必要になります。そのために心理学では対象者の内面をより深く、かつ客観的に捉えるツールを開発しています。「心理的アセスメント I」（「心理アセスメント」）ではアセスメントに用いられる種々の方法、面接法や観察法、検査法などを学びました。本講義ではこの中から特に心理検査という手法にフォーカスを当てて、アセスメントの手法をより深く学習してみたいと思います。</p> <p>教科書やレポート学習で主に学ぶ内容としては、検査法に関する基本的な考え方や、検査結果で用いられる数値や統計処理に関する基礎事項などが含まれます。スクーリングで主に学ぶ内容としては、実際の検査の用いられ方や報告書の書き方（報告書がどういものなのか）などが含まれます。</p>	<p>1) 検査法を用いたアセスメントの流れについて略説できる。</p> <p>2) 「人格検査」「知能検査」それぞれの特徴について具体的に説明できる。</p> <p>3) 対象者に合わせた検査の選択を行う必要性について説明できる。</p> <p>4) 適切な検査報告書がどういものなのか説明できる。</p>	◎	◎	◎				◎
FF2522	ライフサイクルと福祉心理学	<p>人間は、生まれてから死ぬまでのライフサイクルにおいて、家族の変容に伴い様々な悩みや問題と遭遇していきます。問題の意味を自己成長というキーワードをもとに考えつつ、その対応をどうしていくのがよいかについて、福祉心理学の視点から掘り下げていきます。自分自身の生き様や家族のことを考えながら学んでいただきたいと思っています。</p>	<p>1) エリクソン心理社会的発達の8段階が正確に説明できる。</p> <p>2) 家族関係の変化に伴って起こる問題や課題を、具体的に解説できる。</p> <p>3) 家族関係の変化に伴って起こる問題や課題に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。</p>	◎	○	△	◎	○	◎	○

FF3552	臨床心理学概論Ⅰ	臨床心理学 (clinical psychology) の「臨床」という語は、ギリシャ語の「寝台 (クリネー)」から生じた語といわれています。かの時代に僧侶らが、死を目前にして苦しむ者に手を差し伸べ、魂の世話をしたことに由来すると見る人もいます。魂の世話 (卑近なことばでいえば心のケア) が必要なのは、何も死を目前にしている人たちだけではないと現代では考えられています。人はだれもが、苦しみを抱え、ときに抱えきれずに立ちつくすことがあるものです。そのようなときに、その人が自分らしい未知を歩き出すために心理学的な援助を提供するという実践的な目的を持っているのが臨床心理学です。まずは、臨床心理学が何であるのかを概観してみましょう。この段階で、教科書の後半にある現代におけるさまざまな領域での心理援助の実践を知り、現在に至る臨床心理学の成り立ちを俯瞰して、臨床心理学の成り立ちについて学びます。 ところで、では心理学的な援助はどのように提供することができるのでしょうか。どんな人にどんな援助が適切かを見極めることも必要です。とすると、相手について理解しようとするのが不可欠ですから、次に、そのための「臨床心理アセスメント」について学びます。そして、19世紀以降発展してきた臨床心理学の理論を学ぶことで、心理学的な援助の礎となる考え方を概観します。これらを通じて、自分自身を理解しようとする姿勢を培い、自分の心を通じて他者を理解していこうとすることについて、理解を深めていきます。	1) 臨床心理学の成り立ちについて、説明することができる。 2) 臨床心理学の代表的な理論を説明することができる。	◎	○	○	○	◎	○	○
FF4555	臨床心理学概論Ⅱ	心理臨床において培われてきた代表的な理論の成り立ちと特徴を理解することが、心理臨床の実際や心理療法 (心理学的支援法) や心理的アセスメントといった臨床心理学に基づく実践における必須の基盤となります。臨床心理学概論Ⅱでは、臨床心理学概論Ⅰで概観した臨床心理学の大枠を踏まえ、代表的な理論をより詳細に学び、各理論の特徴を、その成立の経緯や他の理論との比較から把握していきます。	1) 臨床心理学の成り立ちをその歴史を踏まえて説明できる。 2) 臨床心理学の代表的な理論のいくつかについて、その特徴を他の理論との比較しながら説明できる。 3) 心理臨床の実践の具体例において、理論を基盤とした対象者についての理解 (仮説) を記述できる。	◎	○	○	△	△	△	△
FF3503	臨床心理学	「臨床心理学概論Ⅰ」参照	「臨床心理学概論Ⅰ」参照	◎	○	○	○	◎	○	○
FF3554	心理学的支援法Ⅰ	「心理支援」「心理学的支援法」という言葉は、我が国の心理学の専門用語としては比較的新しいものです。従来は臨床心理学などに基づく心理学的な支援・援助は、多くが「カウンセリング」「心理療法」と呼ばれてきました。国家資格としての公認心理師が法的に位置づけられ、2018年4月より養成カリキュラムがスタートしました。その中で、心理学に固有の、カウンセリング・心理療法・他の支援方法を包含する新しい用語として名称化されたものが、「心理支援」「心理学的支援法」です。 心理的な問題で苦しむ人々を支援したり、その人固有の豊かな生き方を模索することを支えたりする「こころの専門家」になるための土台となるのが、この「心理学的支援法」という科目です。 日常生活の中で友人や家族の悩みの相談に乗ることはよくあることでしょうか。心理学的支援法はそれと何が違うのでしょうか。この科目では、心理学的支援法とは一体何なのか、ということから、歴史、様々な理論と方法、実際行われる作業までを広く学びます。たとえなら世界地図を見るようなものです。五感と想像力を働かせて、面白さや意味深さを感じ取ってください。その中で上の問いへの答えが実感できるはず。この科目は、その先の一つ一つの国を訪れるための入り口なのです。	1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を説明することができる。 2) 訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。 3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べるることができる。 4) プライバシーへの配慮について説明することができる。 5) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について解説できる。	◎	△	○	△	△	○	◎
FF3557	心理学的支援法Ⅱ	心理療法は、今から100年前に誕生し、発展してきた学問領域です。他の科学と比べると若い学問領域ではありますが、急速に理論と実践が発展してきています。それは、物が豊かになった現代社会において緊急課題となっている親子関係、対人関係、自分らしい生き方など、いわば「心のあり方」に関する事柄にこの学問領域が応えているからでしょう。 人間の心は、複雑に機能しつつもある程度のもつて機能しています。現代のような複雑な社会において、人間が人間らしく生きていこうとするといういろいろな要因により心が十分に機能しなくなることがあります。心理療法とは、深刻な悩み、症状 (身体症状も含めて)、問題行動、人格機能等を心理的側面から援助する学問です。人間が複雑な心の働きをするため、その接近法である心理療法も多種多様となります。 2019年の春には公認心理師の資格を取得した人たちが誕生します。公認心理師の科目名としては、従来の「心理療法」の科目名が「心理学的支援法」になります。そこで、心理学的支援法Ⅱでは、3つの代表的な心理療法を学習することを目的とします。	1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を説明することができる。 2) 訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。 3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べるることができる。 4) プライバシーへの配慮について説明することができる。 5) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について解説できる。	◎	○	○	○	○	◎	○
FF3520	心理療法	「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」参照	「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」参照	◎	○	○	○	○	◎	◎
FF3521	心理療法各論	カウンセリングにおいて、理論とは、困難に直面した人を理解したいと思ったときに道しるべとなるものであり、技法とは、援助したいと思ったときに道具になってくれるものです。現在よく知られている理論だけでも相当な数があり、それぞれに異なる人間観・治療観・技法を持っています。カウンセラーは、これら多くの理論・技法について、広く知っている必要があります。一つの理論では、到底理解、対応しきれないものが、生身の人間だからです。同時に、これら多くの理論・技法の中から、自分の臨床実践の骨格となる特定の理論を選び、深く学ぶことも大切です。 この科目では、「臨床心理学」「心理療法」など他の科目ではなくわくとりあげられなかった「特性因子理論」「認知行動療法」「精神分析療法 (交流分析、ゲシュタルト療法)」「人間学的アプローチ」「家族療法」、その他の療法を学んでいただくと思います (精神分析療法については、他の科目で詳しく取り上げられているので、省略し、交流分析とゲシュタルト療法についてのみ取り上げます)。多種多様な理論・技法の特徴を学びながら、自分のバックボーンとなる理論や使いこなせる技法を見つけていってください。	1) 心理療法の主要な諸理論 (特性因子理論、認知行動療法、交流分析、ゲシュタルト療法、人間学的アプローチ、家族療法) について解説することができる。 2) 心理療法の主要な諸理論について具体例を記述することができる。 3) 産業カウンセラーとして、主要な諸理論と技法をどのように活用するかを述べるることができる。	◎	○	◎	○	○	△	○
FF4558	心理学的支援法Ⅲ	「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「発達心理学」「心理学実験ⅠA」「社会・集団・家族心理学A (社会・集団心理学)」「臨床心理学概論Ⅰ」「心理的アセスメントⅠ」「心理学的支援法Ⅰ」「心理学的支援法Ⅱ」10科目の知識を生かし、事例をアセスメントできその上でそれぞれのクライアントにとってどのような「アプローチが望ましいか」の感覚を身につける。	1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの概念、意義、適応及び限界を述べることができる。 2) プライバシーへの配慮について説明できる。 3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を述べることができる。	◎	○	○	◎	◎	○	○
FF3551	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学 (「犯罪非行心理学」から科目名変更) は応用心理学の一領域です。ドラマや映画で描かれるような「犯罪プロファイリング」も捜査心理学という犯罪心理学の一分野の方法ですが、基本的には、なぜ人は犯罪をするのか、どのようにすれば犯罪をくり返さないようになるのか、そして犯罪の発生を減らし、犯罪に遭わないようにするためには何が必要なのかを現実的に考えるために、近接した学問領域の知見を援用して統合的に考察する学問であると言えます。「犯罪」と「非行」という使い分けは、成人による犯罪と未成年者の非行について法律で異なった扱いをすることや、発達段階の違いから、反社会的行動の性質や立ち直りに影響する要因などさまざま異なる側面があることを意味します。また、犯罪と非行は刑事司法が司りますが、この科目ではさらに民事司法の中で、離婚や子どもの親権をめぐる争いなど家庭内紛争の理解と融和を目指す、家庭裁判所における家事事件の扱いを学びます。	1) 犯罪や非行という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。 2) 再犯を抑制して社会適応を促すさまざまな処遇方法を述べることができる。 3) 離婚や子をめぐるとの争いなどの家庭内紛争の構図について説明できる。	◎	○	◎	○			○
FF4559	健康・医療心理学	健康を支援する取り組みにおいては「不健康状態の解消」だけが目標になるのではなく、近年では「今ある健康を維持する」あるいは「ますます健康になる」という目標が重視されてきている。本講義では「健康である者はなぜ健康なのか」という問いのもと、心理学の新たな分野である健康心理学の知見とその活用について詳述していく。また、健康を支援する実際の現場での心理学の立場から指摘される課題と支援について、医療・保健現場・災害時支援の領域ごとに整理する。	1) 健康心理学の基本概念を習得し、他の心理学領域との差異を説明できる。 2) ストレスを心身の疾病の関係を説明できる。 3) 自己のライフスタイルの形成・修正に習得した理論/概念を役立てることができる。 4) 医療現場・保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 5) 災害時等に必要心理支援を説明できる。	◎		◎		◎		◎
FG2682	カウンセリングⅠ	様々な援助活動があり、昨年「カウンセリング」という言葉自体が様々な使われ方をしている。心理学を基盤としたカウンセリングの専門的な理論と方法について学んでいく基礎として、カウンセリングの意味や特質などを学び、自分自身の人間観を理解することにより、援助者としての心構えを理論的理解から自分自身を振り返ることを目指してもらいたい。	1) カウンセリングの定義や特質を理解し、カウンセリングのベースになるものを説明できる。 2) カウンセリングの効果を理解し、援助する際の留意事項を説明できる。 3) 来談者中心療法の理論を理解し、人間観を身につける。	◎	○	○	◎	◎	△	○
FG2683	カウンセリングⅡ	カウンセリングの目的は、問題解決にあります。カウンセラーは、質問とあいづちによって面接の流れをコントロールし、問題解決をマネジメントします。本講義では、基本的なあいづち技法と問題の本質にフォーカスする問題焦点化技法を学び、面接援助の土台づくりを目指します。	1) 基本的なあいづち技法を会話に活用できる。 2) 問題焦点化技法を説明できる。 3) 問題焦点化技法を使うことができる。	◎	◎		◎	◎	◎	◎
FG3685	カウンセリング演習Ⅰ	自分自身が人を援助する際に自分とはどのような人間で、どのように人と接しているのか、自分の価値観や考え方に偏りはないかに気づき素直に認める自分があるかを認識してほしい所です。そのうえでカウンセリングの基本とされる「傾聴」の姿勢と技術を実践的演習とグループワークにより体感し、表現できることができるよう練習を課します。	1) カウンセラーの基本的態度について体験的に理解を深め、相手に伝わる態度を修得する。 2) 傾聴基本的技法を体得し、適切に活用できる。 3) 自分の態度、聴き方の特徴についてロールプレイ、グループワーク等でフィードバックしながら、気づき、またそれを認めていくことができる。	◎	○	○	◎	○	△	△

FG3686	カウンセリング演習Ⅱ	カウンセリングの実践や応用について、体験的に理解していくことを目的とした授業です。1対1での傾聴の姿勢を身につけるだけでなく、逐語記録を使った対話分析などを行い、より適切な応答を細かく検討していきます。伝統的な個人面接に加え、臨床現場で行われているサポートネットワーク、コンサルテーション、危機介入、システムズアプローチなどの援助方法も学習します。ただし、こうした理論の習得だけではなく、グループワークによって非言語のコミュニケーションスキルを磨くトレーニングをしたり、ロールプレイを批評しあったりといった、かなり実践力に比重を置いた授業になると考えてご参加ください。	1) カウンセリングの基本的な技法を使って、クライアントの感情を表す言葉を引き出せる。 2) 非言語のコミュニケーションスキルを駆使して、クライアントとの信頼関係を築ける。 3) 自分の感情や価値観に縛られずに、クライアントの言葉を受けとめながら聴ける。 4) クライアント個人だけではなく、その人の暮らし環境にも視野を広げ、サポートの資源を探し出せる。	◎			◎	◎	◎	◎
FH3560	知覚・認知心理学	この科目では、生体が外界にある対象を知覚し、その対象が何かを判断したり解釈したりする過程や仕組みについて学びます。各テーマの代表的な研究だけでなく、応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して認知心理学についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。	1) 人の知覚・知覚等の機序及び障害について理解し、説明できる。 2) 人の認知・思考等の機序及び障害について理解し、説明できる。 3) 認知の基本的な仕組みについて理解する。 4) 代表的な実験結果について図表をもとに読み解くことができる。	◎	○	◎	○	△	△	○
FH3510	認知心理学	「知覚・認知心理学」参照	「知覚・認知心理学」参照	◎	○	◎	○	△	△	○
FH3561	学習・言語心理学	心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶に関する研究、人間の言語に関する研究の3つの流れがありました。この3つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果にも理解を深めることが本科目の主な目的です。	1) 人の行動が変化する過程について理解し、説明できる。 2) 言語の習得における機序について理解し、説明できる。 3) 学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。	○	◎	◎	△	△	△	○
FH3512	学習心理学	「学習・言語心理学」参照	「学習・言語心理学」参照	○	◎	◎	△	△	△	○
FJ3562	神経・生理心理学	人間は、外界の事象、自分や他者の状態など多種多様な情報を受け取り、行動を選択し、外界に働きかけながら生活しています。この生活を支えているのは感覚・知覚・注意・記憶・感情・言語・運動といった「こころ」の様々な機能、さらにはそれらの機能を実現させている脳・身体です。本講義では、種々の心的機能を関連する脳内メカニズムの観点から理解することを主として講義を進めていきます。 具体的な内容には、1) 種々の心的機能を支える脳構造・機能と結びつけて説明することができる、2) 心と脳の関係性がいかなる研究法・臨床例等によって明らかにされてきたかを説明することができる、3) 心と脳の関係について現在までの研究で言えることと、言えないことの区別ができること、に焦点をあててお話しします。 【スクーリングで学ぶ内容】脳の3次元画像を含む多くの画像資料をみながら、心と脳の関係について学びます。 【教科書・レポート学習で学ぶ内容】心を実現する脳構造・機能についての基礎的な知識について学習します。	1) 脳神経系の構造および機能を説明できる。 2) 知覚・記憶・感情等の働きに対応する生理学的反応とその仕組みを説明できる。 3) 高次脳機能障害の諸症状とその仕組みを説明できる。 4) 種々の情報メディアで取りあげられる心理学や脳科学を理解・評価できる。	△	◎	◎	×	×	×	△
FP5571	福祉心理学演習	(中村担当) 目標達成的な相談支援を提供するためには、支援者のケース・フォーミュレーション作成力が問われます。ケース・フォーミュレーションとは問題解決の公式化のごとで、①支援目標、②アセスメント(問題分析:問題の悪循環についての要因および構造の明確化)、③支援方針から成り立ちます。支援者が描くケース・フォーミュレーションが明瞭で的確であるほど問題解決は効率的に図られ、逆にその内容が曖昧で的外れであるほど問題解決が困難になります。 そこで、本演習では事例を用いてグループスーパービジョンを行い、スーパーバイザーとともに事例を読み解き、ケース・フォーミュレーションを作成します。 そのため、受講生に事例の提供を募集します。事例提供者は、スーパーバイザーとともに支援プロセスにおける課題を整理し、ケース・フォーミュレーションを作成することができます。 なお、本演習の特徴はリアルな事例検討にあります。事例はプライバシーを守るため、加工して抽象化させますが、受講生には授業内守秘の厳守を前提にした参加が求められます。 (山口担当) 心理学領域の講義を受けていると、さまざまな知見が示されることと思います。例えば、単純接触効果、ピグマリオン効果、ハロー効果、バーナム効果…。人々の心的一般法則が多種多様に示されていますが、そのような効果や知見がどのように見いだされたのか、考えてみたことはありますか?緻密で精巧な実験や調査によって生み出されています。この演習では、「心理学研究」「社会心理学研究」「実験社会心理学研究」に掲載されている論文のうち、受講生の皆さんひとりひとり最も関心のある論文を講読し、論文の内容を理解し、問題点を発見する力を身につけます。	1) 事例を読み解き、何が問題をつくっているのか説明することができる。 2) 問題を悪循環させている構造を説明することができる。 3) 問題解決のための支援目標を設定することができる。 4) 問題解決のためのアクションプランを策定できる。 5) 策定されたアクションプランに対するリスクを説明できる。	◎	◎	○	◎	○	○	○
FT2605	特講・福祉心理学5(自己がしの心理学)	皆さんは自分がどういう人間なのか、よくご存知でしょうか。どんな性格を持ち、他者からもそれを認められているでしょうか。長所を短所と思い込んでいませんか。この講義では心理テストを多用し、皆さん自身が被験者となって、自己イメージを客観的に明らかにしていきます。自立性、責任感、外向性、対人関係の特性、家族観など、心の様相が浮き彫りになってくることでしょう。思考や行動、人間関係のパターンを確認し、自分らしさを自覚することによって、自己実現のヒントを得る。それがこのスクーリングの目的です。	1) 自分の性格や行動の長所と短所を、それぞれ最低でも10項目あげて説明できる。 2) 対人関係を築くうえで改善していく目標を、3つあげることができる。 3) 自分らしさを生かせる今後の人生のプランを、物語にして話すことができる。	◎			◎	◎	◎	◎
FT2608	特講・福祉心理学8(ストレスとつきあう心理学)	人間は少なからずストレスを抱えながら過ごしています。そのストレス社会を生き延びるのは簡単なことではありません。ストレスがたまって仕方がないという方。どうして自分だけがこんなにストレスを被りながら生きなくてはいけないのだろうと嘆く方。どうせストレスなんかなくなると耐える覚悟を決めている方……。つらさが高じて、ひきこもったり、燃え尽き(バーンアウト)症候群に陥ったりしてしまうのを防ぐために、この講義でヒントを得ていただきたいのです。福祉・医療・教育など、人間の心や身体をフォローする対人援助職に従事する方だけでなく、日常の生活ストレスに悩んでいる方にも、気付きと対処スキルを得ていただければと願っています。	1) ストレスを抱えやすい自分の性格や行動の特徴を説明できる。 2) 人間関係を築くうえで使えるコミュニケーション・スキルを、最低でも3つあげることができる。 3) ストレスフルな時の自分の身体の状態を知り、身体に働きかけてリラックスする方法を3つ以上持つ。	◎			◎	◎	◎	◎
FT2609	特講・福祉心理学9(コミュニティ心理学)	多くの心理療法や心理学は「個人」をベースとしますが、コミュニティ心理学は「個人とコミュニティ、システムとの関わり」に関心を持ちます。ですから、専門家であってもコミュニティの一員としてできることはなにか?と考えてアプローチします。本スクーリングでは、個人と環境をセットでとらえるコミュニティ心理学独自のスタンスについて、基礎的な理解を旨ざしたいと考えています。	1) コミュニティ心理学の特色を説明できる。 2) コミュニティ心理学の発想は心理療法や心理的支援においてどのように活かされているか説明できる。 3) コミュニティ・アプローチと伝統的な個人心理療法の差異について説明できる。	◎	○	◎	○	○	◎	◎
FT2617	特講・福祉心理学17(認知行動療法)	認知とは、ものごとに対する個人の解釈です。行動とは、刺激や解釈に対する反応です。認知行動療法では、不適応は問題行動によって起きるので、それを引き起こしている誤学習を修正すれば問題が解決するはずだと考えます。この授業では、不適応場面での問題行動をとらえ、その背景にある認知と行動の分析方法および誤学習の解除について学びます。	1) 認知とは何か説明できる。 2) 行動とは何か説明できる。 3) 学習行動について説明できる。 4) 誤学習について説明できる。 5) 誤学習の解除について説明できる。 6) 認知行動療法について説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○
FT2618	特講・福祉心理学18(人間関係におけるケアと暴力)	この講義では、恋人や配偶者といった親密な関係で生じる暴力の生起プロセスを理解すると共に、そこに関わる「関係性の心理」の特徴を考えます。また、家族を超えたケア関係の中で生じる暴力の特徴にも触れることで、親密な関係における暴力との共通性について議論し、予防に向けた展開を考えます。	1) 親密な関係で生じる暴力の特徴を説明できる。 2) 暴力の背景にある被害者や加害者の心理プロセスを説明できる。 3) ケアする関係にみられる暴力のエスカレートとの共通性を説明できる。	◎	◎	○	○	△	◎	○
ZZ5991	卒業研究	卒業研究は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものです。 必修科目ではありませんが、学生時代に学問的な創造性を発揮し得る絶好の機会です。自分がはたして大学で何を学び身につけることができたのかを確認することもできます。時間的な余裕のある学生は履修することをお勧めします。	1) 卒業研究のテーマを見つけることができる。 2) テーマに関連した文献をレビューできる。 3) 研究の目的を考え、研究デザインをつくることのできる。 4) 仮説を立てることができる。 5) 調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。 6) 結果について統計処理ができる。 7) 考察を行い、論文としてまとめることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

● 専門選択科目 B 群

科目コード	科目名称	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要, ○重要, △望ましい)							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
DA3146 AB1146	統計情報を見る眼	<p>私たちは普段テレビや新聞、広告などを通してたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことが可能になると考えられます。しかし、その反面、このように統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことは必ずしも簡単なことではありません。</p> <p>本科目では、1) 統計情報の種類やそれらの特徴について理解すること、2) それらを利用し解釈する際の留意点や統計的な思考法について学んでいくこと、3) 手元のデータを一般化する方法について学んでいくことの3点を目的とします。以上を通して、統計情報に騙されることなく、それを「読みこなし」「使いこなす」ことができるよう「統計情報を見る眼」をより豊かなものにすることを目指します。</p> <p>なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。その点で、特に数学に苦手意識を持つ方には、履修することがはばかれる科目かもしれません。しかし、本科目では、統計値の算出の仕方やその数式の理解ではなく、その統計値の意味やその統計値を解釈し利用する際の留意点について理解を深めることに重点を置きます。</p>	<p>1) 平均や度数といった統計情報の特徴、およびこれらを理解・使用する際の留意点について説明できる。</p> <p>2) データのばらつきを理解することの重要性について説明できる。</p> <p>3) 相関について、相関関係を様々な観点から解釈することができる。</p> <p>4) 統計的検定の思考法について説明できる。</p> <p>5) 示された統計情報やそこでなされている主張に対して、統計的な思考法に基づきながら批判的に検討できる。</p>	○	◎	◎					△

※ その他の「共通基礎科目」「専門選択科目 B 群」は、社会福祉学科 カリキュラムマップを参照してください。